

平成 12 年 7 月 26 日  
気象庁 気候・海洋気象部

## 配信資料に関する技術情報（気象編）第 68 号

### － 波浪予報モデルの台風域の波高値について －

波浪モデル（全球、近海及び沿岸）GPVデータの台風域の波高値が、今年に入って高めに計算される傾向がありました。このため、同モデルの改良を行い、2000年7月27日00UTCイニシャルの提供データから改善することとします。ただし、以下の部分について注意して利用されるようお願いいたします。

波浪モデルの台風域の波浪計算は、数値予報モデル(GSM,RSM)で予測された風の場合に、台風進路予報に基づいた風の場合を重ねた風の場合を使って行われます。今回の改良は、この風の場合の重ね方を見直すことによりデータの改善を図るものです。

ただし、台風進路予報に基づく風の場合が適用されるのは T=00 から T=48 の期間についてのみであり、それ以降の期間においては、風の場合の重ね方の見直しの効果が働かないことから、改善前と同様に高めに計算される傾向があります。

また、T=00 から T=48 の期間においても、台風進路予報の予想位置と数値予報モデルで予測される台風に該当するじょう乱の位置が大きく異なる場合にも、風の場合の重ね方の見直しの効果が働かないことから、改善前と同様に高めに計算される傾向がありますので、注意が必要です。

波浪モデルの結果が適用される資料は以下の通りです。

#### GPVデータ

KM\*B（沿岸波浪モデル）、KM\*F（沿岸波浪モデル [中枢用]）

KM\*A（近海波浪モデル）、HJX\*88（全球波浪モデル）

KMZ I 3 0（地点波浪予想資料）

KMZ I 5 0（地点波浪予想資料 [中枢用]）

#### FAX資料

FWJP04

本件に関する問い合わせ先

気象庁 気候・海洋気象部 海上気象課（波浪担当）

03（3212）8341 内線 5151